

ぶんかざいまるちなび

No.41

## 文化財 知ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。  
ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

## 「日本遺産」ってなんだろう？

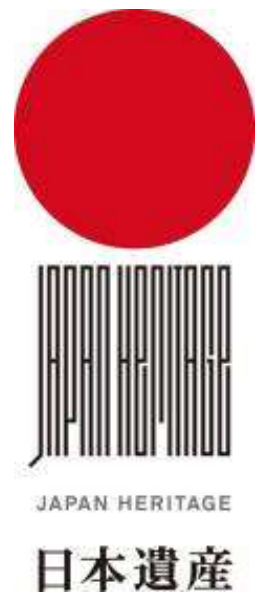
「日本遺産」は、地域にある古い建物や大昔の遺跡、めずらしい天然記念物、毎年行われるお祭など、これからも残していきたい文化財を一つにまとめ、その地域の魅力を語る「ストーリー」にして、多くの人に知ってもらったり、見に来てもらったりするものです。

今までに、全国では67件、北海道では3件のストーリーが、日本遺産として文化庁から認定されています。

今回は、北海道の3件をご紹介します。

1つ目は江差町の、ニシン漁でにぎやかだった町並みを扱ったストーリー、2つ目は函館市・松前町・小樽市・石狩市などによる、日本海で活躍した北前船にまつわるストーリー、3つ目は上川町など12のまちによる、カムイと共に生きる上川アイヌのストーリーです。

※ ここでは、文化庁から認定されたストーリーを小・中学生向けに再構成しています。



## 江差の五月は江戸にもないーニシン繁栄が息づく町ー



《旧中村家住宅（重要文化財）と江差の町並み》

道南地方の檜山管内・江差町には、昔の漁師や商人の家が多く残っており、暖簾や看板、壁に記号のようなしるし（屋号）があります。建物の裏側には日本海が広がり、海でとった魚を船からすぐに家へ運べるよう工夫されています。

この町並みは、江戸時代から明治時代に多くれたニシンとその加工品を売買することで、江差のまちが発展してできたものです。

本州からも漁師や商人が集まり、ニシンがとれる春の季節はとて賑わったので、「江差の五月は江戸にもない」と評判になったほどでした。ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝えられている文化とともに、今でもこの地域にはっきりと足跡を残しています。

あらなみ こ ゆめ つむ いくうかん きこうち せんしゅしゅうらく  
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落

北海道の函館市、松前町、小樽市、石狩市や、本州の日本海、瀬戸内海の海岸には、江戸時代に「北前船」という船が通った港があります。

港のそばには航海の目印になる大きな山があったり、船の荷物を入れる大きな蔵がいくつも並んでいたり、商人や船の持ち主の立派な屋敷が建っています。



《松前屏風に描かれた港やまち（松前町）》

北前船に乗る人たちは、航海の安全を祈るためお寺や神社に絵馬や船の模型を飾り、日本海の荒波を越えて、本州のきれいな着物や建築に使うめずらしい石を北海道に運んで売り、その帰りに北海道のニシン加工品（肥料）や昆布などを買って本州まで運び、売りました。

何度も航海するうちに、本州と同じようなお祭りや民謡がそれぞれの港に伝わりました。

北前船が寄ったまちは、ほかとは違う共通した雰囲気を持ち、今も魅力的です。

カムイとともに生きる上川アイヌ～大雪山のふところに伝承される神々の世界～



《大雪山の雄大な自然》

北海道中央部の上川町や、旭川市、富良野市、愛別町、上士幌町、上富良野町、鹿追町、士幌町、新得町、当麻町、東川町、比布町は、上川アイヌの文化が伝わる地域です。

昔、上川アイヌの人たちは、川の激しい流れやけわしい岩山と深い谷が続く様子を見て、魔神と英雄神の戦いの伝説を残したり、神々への祈りの場として崇めた上川アイヌの聖地に、クマ笹を屋根に使った家を建てコタンという集落を作り、祈りを捧げたりしました。

上川アイヌの人たちは、「川は山へ溯る生き物」と考えていたので、川の一番上流にある大雪山を最も神々の国に近く、自然の恵みをもたらす、カムイミントラ～神々の遊ぶ庭～として大切にしてきました。

神々と共に生き、伝えてきた上川アイヌの文化は、この大地に今も息づいています。

※ 日本遺産のポータルサイトもありますので、ぜひ見てみてください。

検索 <https://japan-heritage.bunka.go.jp/ja/>